

保活当事者の声アンケート結果 2018

1、実施概要

2018年4月の認可保育所等の申込者数は3,720人超となった、今春の保活の実態がどのようなものであったか、区の対策、指数変更の効果はどの程度あったのか当事者へのアンケート調査を実施した。

- (1) 対象：杉並区の認可保育所に2018年4月入所(一次)の申込みをした保護者
(途中辞退した方、最終的に申し込みを断念した方も対象)
- (2) 期間：2018年1月27日～2018年2月10日(15日間)
- (3) 実地方法：webアンケート
- (4) 回答数：112件

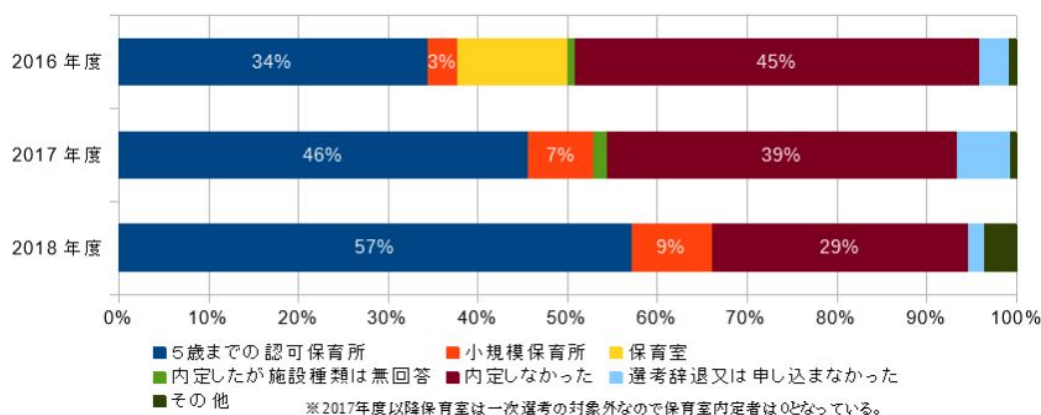
2、結果概要

①量的改善及び地域格差の改善について

—「地域格差の改善」の要望数は減少傾向。ただし当事者の保育園不足感はまだ強い

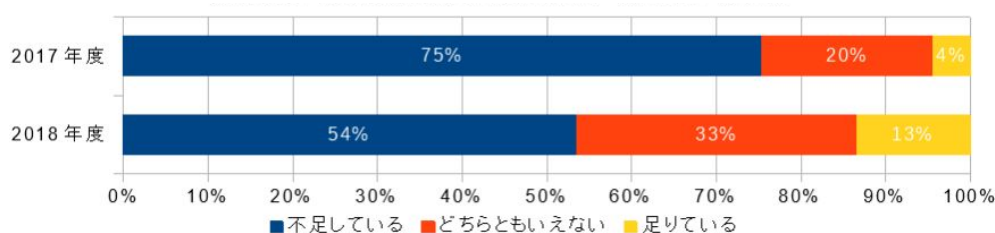
アンケート回答者における「認可保育所等の一次選考結果」は昨年度と比較して「内定した」の割合が53%→66%と1割増え、状況の改善がみられる。

(表1)アンケート回答者の認可保育所等一次選考申し込み結果



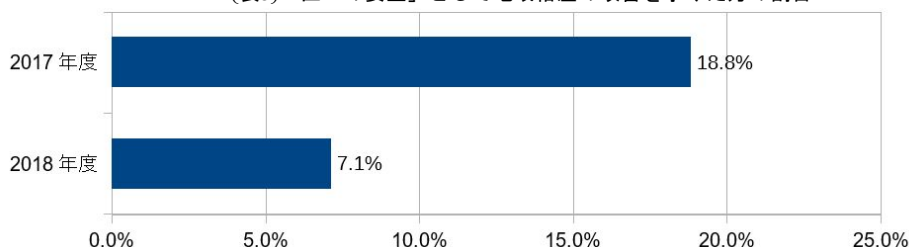
「お住まいの地域の認可保育所等は足りていると思いますか」への回答は昨年度と比較して「不足している」が75%→54%と2割ほど減っている。

(表2)「お住まいの地域の認可保育所等は足りていると思いますか」への回答



また、「区への要望」として「地域格差の改善」を挙げた方は19%→7%と半分以下に減少していることから、地域格差についてもかなり改善がみられる。

(表3)「区への要望」として地域格差の改善を挙げた方の割合



保育緊急事態宣言が解除され昨年度(受入定員2,348名増加)より増設のペースは落ちたが、今年度も受入定員は1,671人増加している。これにより内定率が上がったことが、アンケートの結果にも現れたといえる。

しかし当事者の過半数がまだ認可保育所等が不足している(表2)と感じており、7%が地域格差の改善を要望している(表3)ことより保育園不足の解消には至っていない。杉並区には引き続き認可保育所等の整備に努めていただきたい。

②3歳の壁について

—3歳以降の預け先、懸念に変化なし。地域需要に沿った整備に期待

「3歳以降の受皿の改善」に関しても3年連続一定の割合で要望が寄せられている。(※1)

区全体の小規模保育事業所(事業内保育事業所、家庭的保育事業所を含む)は合計41園、2歳児の定員は232名。また、2歳クラスまでの保育室の全体定員は275名、2歳以降のクラスもある保育室の全体定員は103名である。保育室は年齢別の定員が発表されていないため、全体定員のうち2歳クラスの在籍者数の実態は不明だが、少なくとも100人以上は在籍していると考えられる。小規模保育事業所と保育室の2歳児の定員と合わせると、認可保育園の3歳クラス入所希望者は、400名近く存在すると推測される。

一方、今年度の認可保育所の3歳児の募集数は既存の園で161名、新規開園は272名で、合計433名分であった。

2018年4月入所申込においては、3歳募集定員433名に対して申込は418名で、認可保育所の3歳枠は足りているように見える。

しかし、アンケート回答には「3歳からの預け先が少なく、不安」という声はまだ多数あり、当事者は3歳枠が不足していると感じている。これは、上述の小規模保育事業所と保育室の2歳定員と比べると、既存園の3歳募集人数が圧倒的に少なく、新規開園がなければ、「全員が確実に3歳以降も入園できる」状況ではないためである。

また、区内外の認証、認可外施設を利用している児童を含めると、3歳以降に認可保育所の転園を希望する潜在需要は更に高いと考えるべきだ。

また、3歳の壁については、幼稚園の預かり保育の拡充、こども園の完全給食化および、延長保育の拡充を要望する声が昨年に続き多数あり、認可保育所と同等のサービスを提供することで3歳以降の預け先の候補に成り得ることが分かる。(※1)区への要望分類集計参照

杉並区には、小規模保育事業所の整備と同時に、地域需要にあわせた3歳以降の預け先の確保が望まれる。

<当事者の声>

“小規模園ばかりが増えているため、2歳3歳以降の入所への不安は尽きない。”

“幼稚園や保育室の延長保育を充実させる。学童も同様にサービスを充実させてほしい。”

“こども園や幼稚園では保育時間が短く、働くのが難しい”

③指数変更について

—戸惑いの声多く、早急なルール変更に区への反発心も

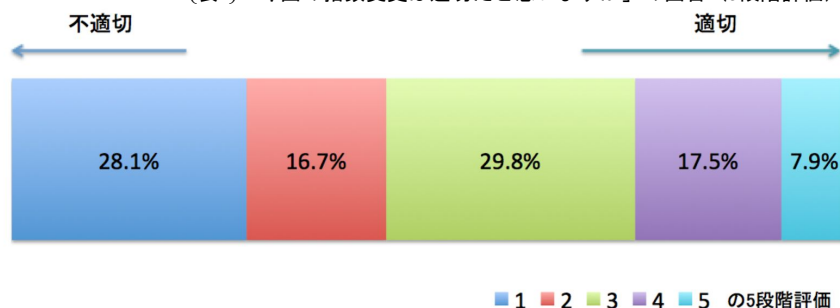
2018年度から認可保育所等の利用調整指数において「認可外保育等」の調整指数加点の廃止及び「育児休業制度等」の加点の追加がされた。これは保護者に安心して育児休業を取得(利用調整指数の加点を目的とした0歳児からの保育所等入園を抑止)してもらうことが目的だと考えられる。

※平成29年5月杉並区『待機児童解消緊急対策の総括と今後の取組』より

○調整指数の変更への反応は賛否あり

「今回の指数変更は適切だと思いますか」の回答をみると、保活当事者の反応は賛否あった。

(表4)「今回の指数変更は適切だと思いますか」の回答(5段階評価)



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 の5段階評価

0歳児を加点のためだけに預けることがなくなりよい、というポジティブな意見も少なくない。

一方で育休延長できる人だけが有利になり努力ではどうにもできないという不満や、産後早く働きたい人・経済的に働かざるを得ない人は不利になり女性のキャリア形成に影響を及ぼすといった声、育休延長しても希望の園

には入れる保証がないことへの不安など、ネガティブな意見も多かった。これは認可外加点廃止により一度認可外に預けてしまうとその後認可保育所等に入所出来る見通しがたないことが原因と考えられる。

<当事者の声>

“上の子のときに認可外加点のために復職前から無認可に預けていたので、私のようにさみしい思いをするお母さんが減るのは良いことだと思う。しかし一度認可外に預けたら育休延長組に勝てないというのはかなりつらい現実かと。”

“育休延長したい人にはいいが、働きたい人、経済的に働かざるを得ない人には不適切だと思う。育休がとれても実際、2年のブランクでの職場復帰はキツイ。”

○調整指数変更の意図通り0歳児の申込者数は減少したとは言えない

「0歳児で申込したor申込まなかった理由は？」への回答として育休加点を見込んで0歳児での申込みを見送ったという回答と、1歳児での激戦を避けるために0歳児で申込したという回答があり、指数変更は申込の増減の両方に影響を与えたことがわかる。

<当事者の声>

“認可外加点廃止になったので兄弟ポイントあっても無理だと判断し、育休延長を選びました。”

“育休加点の導入によって、より1歳入園が横並びになると判断したため(0歳児で申込をした)”

2018年4月入所の0歳児の認可保育所申込者数は1,191名、昨年（1,304名）より9%減少している。しかし近隣自治体でも0歳児申込者数が減少していることから、2017年10月から育児休業及び育児休業給付金が2年まで延長可能になったことなど別の要因も同時に働いた結果であり、指数変更の影響は限定的だと考えられる。

(表5)近隣自治体の認可保育所等0歳児4月入所の申込者数の増加率（2018年度申込者数÷2017年度申込者数）

杉並区	世田谷区	練馬区	武蔵野市
91%	94%	94%	93%

※出典 杉並区『平成30年4月認可保育所等の利用申し込み状況』『平成29年4月認可保育所等の利用申し込み状況』他

「区への要望」として「希望した時期に入園したい」を挙げた方は13.0%→12.5%と横ばい。指数変更の意図通り、保護者が保育園の心配をせず安心して育児休業を取得する為には「0歳児募集枠を減らして1歳児募集枠をふやす」「入園予約制度」「年度途中の募集枠をつくる」といった追加の対応を求める声が挙っている。

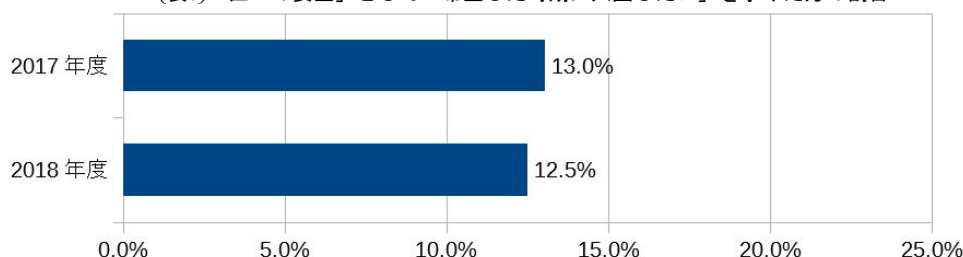
<当事者の声>

“育休取得のポイントには基本的には賛成です。0歳児保育は費用もかかりますし、できれば一緒にいたほうが子供の為にもなると思うので。ですがもともと1歳の枠が少ないです。費用広さなど制限がかかる0歳児を減らしても1歳枠を増やして欲しい。”

“長く育休を取得するには1歳のときに認可保育園に入れる保証が必要だと思うので、検討してほしい。”

“2歳まで育休を取得できれば良かった。途中入園ができないだろうという見込みからこのタイミングでの復帰となった。”

(表6)「区への要望」として「希望した時期に入園したい」を挙げた方の割合



○調整指数の変更の発表時期に対する不満が多数

「区への要望」の回答として「情報公開の改善」を挙げた方の割合が8%→16%と倍増。

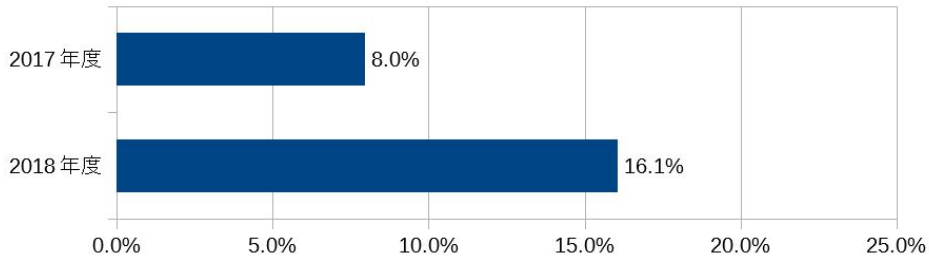
「指数変更をどう思いますか」の記述式回答でも12名(全体の11%)が指数変更の発表が直前すぎる不満を挙げた。

指数変更の発表（2017年10月）から適用（2018年4月）までの期間が短かったため、すでに保活の計画を立てた保護者にとっては予定が狂い、今回の変更の発表タイミングに対しては大きな抵抗感があつたようだ。

<当事者の声>

“指数という重要な根幹のルールを変更したにも関わらず、その情報開示が10月の申込書配布時であり、遅すぎる。保活は春ごろからすでに始まっており、変更前の指数を前提に保育所を見学しているため、10月以降に改めて候補保育所を見直し、新たな候補保育所の見学に行かなければならない”

(表7)「区への要望」として情報公開の改善を挙げた方の割合



3.総括

保育緊急事態宣言が解除され、2016年度と比べて認可保育所等の増設ペースは落ちたものの2017年度も受入定員が1,671人増え、2018年4月入所の一次選考で内定した割合はさらに上がった。量的な改善や地域格差の改善はまた一段階進んだと言える。

今後は、3歳以降の預け先の拡充及び保護者がそれぞれ希望するタイミングで保育所等に入園できるようにすることをこれまで以上に意識した計画的な整備を区に期待する。

また、指数変更の発表から実施の適切なタイミングに関しては、保活当事者と区との間でかなりの温度差があったことを区には重く受け止めていただきたい。

4、アンケート結果

(1)回答者の居住地(回答数112)

回答者の居住地の区分と回答者数は以下の表のとおりである

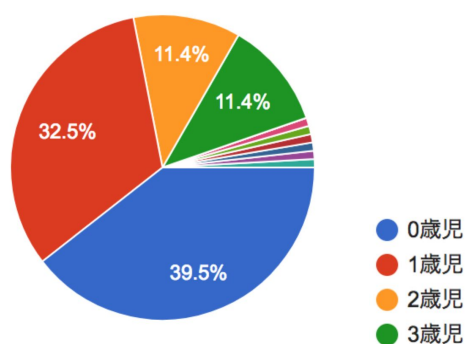
地域	阿佐ヶ谷 北・南	天沼	井草	今川	和泉	梅里	永福	荻窪	上井草	上荻
回答数	15	1	1	1	7	2	3	4	4	1
地域	上高井戸	久我山	高円寺 北・南	清水	下井草	下高井戸	松庵	善福寺	高井戸 西	成田東
回答数	1	3	8	0	2	0	1	1	5	7
地域	西荻北・ 南	浜田山	方南	堀ノ内	松ノ木	南荻窪	宮前	桃井	和田	
回答数	9	2	4	4	1	2	1	0	3	

(2)お住まいの地域の認可は足りていると思いますか (回答数 112)

結果	足りている	どちらともいえない	不足している
回答数	15(13.4%)	37(33.0%)	60(53.6%)

(3)申し込みしたクラス年齢 (回答数 112)

0歳児に申込をした件数が最も多かった。昨年度(1歳児37%、0歳児33.3%、2歳児17.4% 3歳児8.7%)と比較すると、1.2歳児の割合が小さくなった。



(4)一次選考の結果(回答数112)

「内定した」が75件(65.8%)と最も多く占め、昨年に引き続き「内定しなかった」33件(28.9%)を上回った。昨年度のアンケート(内定した65.8%、内定しなかった28.9%)と比較すると、内定しなかった割合は小さくなった。

結果	内定した	内定しなかった	選考前に申し込 みを辞退	申し込まなかつ た	その他
回答数	76(67.9%)	32(28.6%)	1(0.9%)	1(0.9%)	4(3.6%)

(5)内定した方の施設 (回答数76)

上記(3)の内定した方75名にその他の4名を加えた79名から回答があった。5歳までの認可保育所の内定を得たとの回答が最も多くを占めた。

内定した方の施設	5歳までの認可保育所	2歳までの認可保育所(小規模保育所・家庭的保育事業・事業内保育事業)
回答数(%)	69(86.3%)	10(12.5%)

(6)内定しなかった方の今後の予定 (回答数 34件)

内定しなかった34名のうち、最も多い回答が認可外施設(認証保育所、保育ママ、グループ保育室、ベビーホテルなど)・幼稚園の結果待ちで14件であったが、昨年度の認可外施設結果待ち(61.1%)と比べると大きく減少、指数変更の影響を受けてか、育休延長の回答も8件もの回答があった。

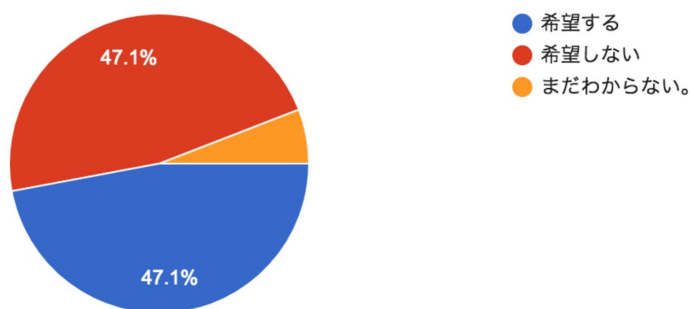
【内定しなかった方】今後の予定を教えてください	認可外施設(認証保育所、保育ママ、グループ保育室、ベビーホテルなど)・幼稚園の結果待ち	育休延長	すでに押さえている認可外施設(認証保育所、保育ママ、グループ保育室、ベビーホテルなど)・幼稚園がある	その他
計	14(41.2%)	8(23.5%)	5(14.7%)	7(20.6%)

(7)【2歳までの園に内定、もしくは継続して通う予定の方】3歳以降はどこに通園することを希望するか (回答数 18)

認可保育所を希望するという回答が多く、12件(66.7%)であった。幼稚園と回答があったのは3件(16.7%)であった。幼稚園やこども園では預かり時間が短く、候補としては考えづらい声がある反面、教育を重視して幼稚園を選択されている方もいた。

(8)【2歳までの園に内定、もしくは継続して通う予定の方】もし以降の受け入れ先が決まらない場合、小規模保育施設の利用を希望するか (回答数 17)

希望しない8(47.1%)と希望する8(47.1%)が同数の結果になった。



「希望しない」の理由は「3歳児以降の幼児はある程度広さのある園庭や、ある程度集団の中で社会性を身につけることが必要だと考える」などが挙げられた。「希望する」の理由は、「やむを得ない」「預け先がないため」という消極的理由が多数挙げられた。

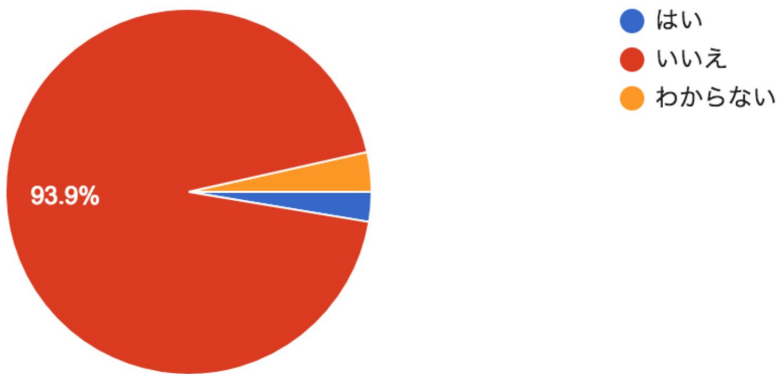
(9)育休は、最大いつまで取得・延長できそうですか?(回答数109)

2年または2年以上育休が取得できる方が51件(46.8%)と約半数だったが、2年未満の方を合計すると50件(51.5%)で、ほぼ同数であった。また2年以上取得はできても、「キャリアを諦めれば」など消極的意見も挙がっていた。

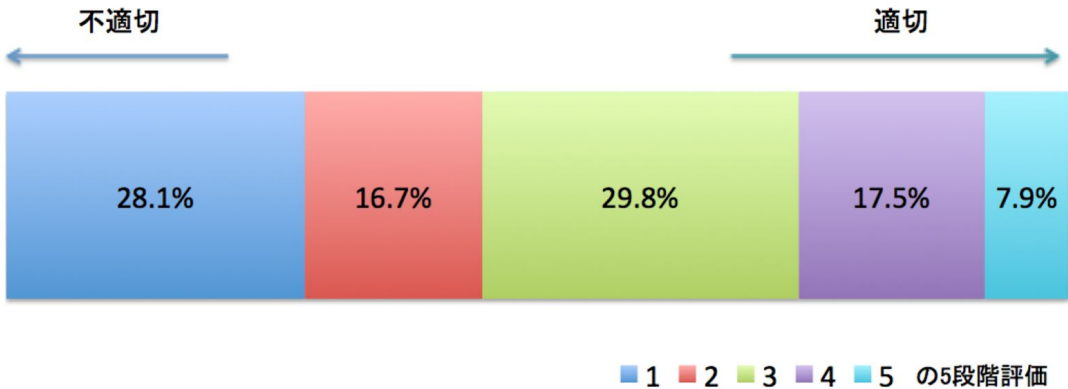
育休は最大いつまで取得・延長ですか？	2年以上	2年	1年半	1歳になった翌4月まで	1歳になるまで	1年未満	育休なし	その他
計	9(8.3%)	42(38.5%)	11(10.1%)	24(22.2%)	7(6.4%)	8(7.3%)	6(5.5%)	2(1.8%)

(10)「保護者全員が育児休業制度のない自営業や勤務先に育児休業制度があるが適用対象外」に該当しますか。

ほとんどの方が、保護者全員が育児休業制度がある方という結果になった。



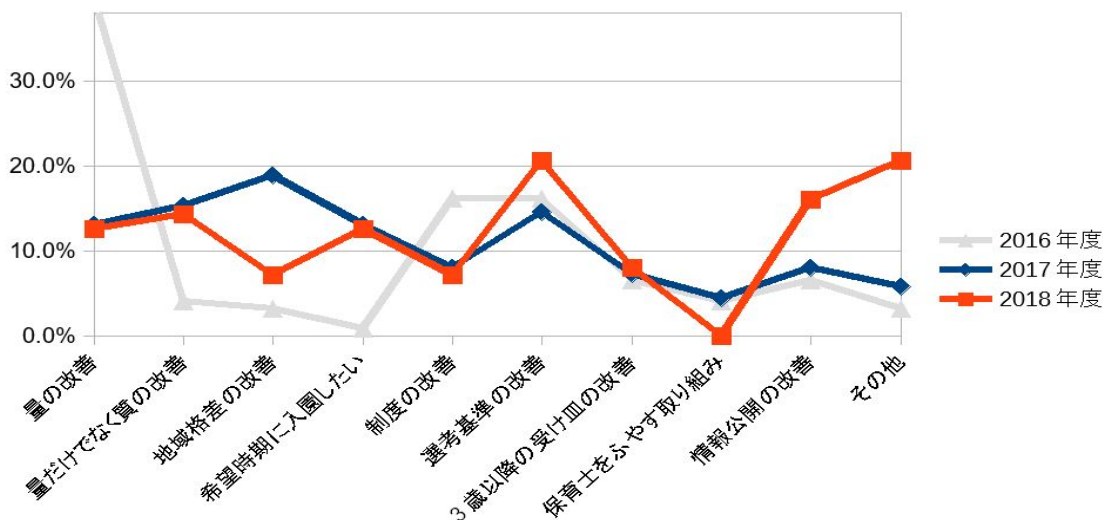
(11)今回の指数変更は適切だと思いますか？



今回の指数変更については、賛否が分かれる結果となった。

(12)「区への要望があればお書きください。」（自由記述式）

回答内容を以下の通り分類した。
※「保活開始から今回の選考結果を振り返って、どのようなお気持ちですか。感想をお書きください。」に対する区への要望が含まれる回答もカウントに含めた。



	件数/回答者数			件数		
	2016年度	2017年度	2018年度	2016年度	2017年度	2018年度
量の改善	40.3%	13.0%	12.5%	50	18	14
量だけでなく質の改善	4.0%	15.2%	14.3%	5	21	16
地域格差の改善	3.2%	18.8%	7.1%	4	26	8
希望時期に入園したい	0.8%	13.0%	12.5%	1	18	14
制度の改善	16.1%	8.0%	7.1%	20	11	8
選考基準の改善	16.1%	14.5%	20.5%	20	20	23
3歳以降の受け皿の改善	6.5%	7.2%	8.0%	8	10	9
保育士をふやす取り組み	4.0%	4.3%	0.0%	5	6	0
情報公開の改善	6.5%	8.0%	16.1%	8	11	18
その他	3.2%	5.8%	20.5%	4	8	23
全回答者数				112	138	124

・地域格差の改善

要望が大幅に減少した。(18.8%→7.1%)

これは認可園が不足している地域に新設園が出来たからだと考えられる。

・希望時期に入園したい(旧「0歳児からでないと入園出来ない状況の改善」)

2018年度から認可外加点の廃止と育休加点の追加があったが、要望は減らなかった(13.0%→12.5)。

原因としては下記2つが考えられる。

・認可園の1歳児枠が増えない限り、育休加点制度が出来ても結局0歳児枠での入園の方が入りやすい。

・育休加点のおかげで1歳児4月で復職しやすくなった代わりに0歳児4月で復職しにくくなった(認可に落ちたら認可外という選択が難しくなった)

・選考基準の改善

また「区への要望」として「選考基準の改善」を挙げた方は14.5%→20.5%と増加。

その内訳として認可外加点の復活を望む声が11名(全回答者の10%)と一番多く、今回の指数変更に不満を感じている保護者は多いと思われる。

一方2018年度は「子どもの生まれ月による不公平」「下の子の育休中だと上の子の入園に不利」といった声が減っており、これは今回の指数変更のプラスの側面と考えられる。

「区への要望」として「選考基準の改善」を挙げた回答の内訳（件数）※1人複数カウントあり

	2017年度	2018年度
認可外加点復活	0	11
休職中、病気等フルタイム以外の世帯は入れない	4	0
在住歴重視(賛成・反対意見含む)	4	5
65歳祖父母不在世帯の優先(賛成・反対意見含む)	3	2
子どもの生まれ月による不公平	4	1
下の子の育休中だと上の子の入園に不利	4	0
その他	1	8

・保育士をふやす取り組み

要望はなくなった（4.3%→0%）。

2017年度は保育緊急事態宣言であまりの数の保育園が新設されて一時的に不安を感じる人がいたのか。

※保育の質向上を目的とした保育士処遇改善は4件あったが（量だけでなく質の改善にカウントした）、保育士確保を目的とした意見はなかった。

・情報公開の改善

要望が倍増。（8.0%→16.1%）

指数変更の発表時期や、変更に関する保育相談窓口の回答が統一されていない事に対する不満が半数以上を占めた。

・その他

今年度は保育に関するトピックが色々あったため、お金関係(保育料値上げ、無償化)4件、ビーチバレーコート4件等の意見が寄せられた。

【当事者の声(自由記述欄より抜粋)】

■ 【0歳を選択した方】 申込したor申込まなかった理由は？

認可外加点廃止の為、不本意な園への申し込みをすることに(5名)

- ・当初から0歳児で申し込む予定だったが、認可外加点廃止・育休加点導入のため、4月復帰必須だった身としては通いされるか不安のある駅遠園も候補に入れざるをえなくなった。
- ・認可外加点廃止により、年齢上限のある認可外選択肢から外さないといけなくなった。また、育休延長は復帰にかなりの困難を要するため論外。全く意図が理解できないシステム変更。認可申込み以外の選択肢がゼロになってしまった。
- ・長女2歳児の保育園は生後8ヶ月からしか預かってもらえないので、今回同じ園に次女を申し込みなかった。姉妹同じ園に申し込むには育休を延ばして加点して来年四月入所に申し込むしか方法がなく、認可外加点があれば良かったのと思う
- ・本当は家から徒歩2分の区立に入れたかったです。そこは一歳からでしたので0歳児は認可外に通わせて...と計画しておりました。しかし認可外加点が無くなったので、0歳から入れる保育所をあたりました。

育休加点がついても確実な復帰の保証がない(3名)

- ・長く仕事しないと復帰が難しいため。認可外加点廃止がなくなるので落ちた場合の事がとても心配だった
- ・来年度入園希望だったので、迷ったが、1歳で入れないときに努力のしようがなく、杉並区歴で決まりそうだったので、第一希望だけ申し込んだ。
- ・職場が早期復帰を望んでいるのと、1歳児からの倍率の方が高そうなので

1歳児より0歳児の倍率が低いと思った為(9名)

- ・0で申し込まないと入れる確率がかかなり低くなるので
- ・職場が早期復帰を望んでいるのと、1歳児からの倍率の方が高そうなので
- ・1歳児クラスに入れられない可能性が高かったため。
- ・ゼロ歳のほうが倍率低いと思ったため
- ・0歳の方が入りやすいと思ったから
- ・育休加点の導入によって、より1歳入園が横並びになると判断したため
- ・認可に0歳から入れないと、来年から認可外加点廃止されるので、認証預けてからの一歳から認可保育園転園が望み薄いと思ったため。
- ・1歳クラスの競争率が元々高いが、育休2年の影響で来年度はさらに1歳クラスが激戦になると考えたため。
- ・来年に延ばしたら、加点狙いの人で競争になると思ったので、あえて0才4月で早めに入れるのがいいと思った。

育休加点狙いの保活に変更(3名)

- ・育休加点が導入されたため、自宅から立地が良く、見学をして"ここに通えるなら育休を切り上げてでも良い"と思えた2園に絞って申し込みを行った。
- ・認可外加点廃止になったので兄弟ポイントあっても無理だと判断し、育休延長を選びました。
- ・育休加点がついても1歳児入所は依然としてハードだと思っていたので、0歳申込みを選択。会社の制度では2歳まで休めるし、せめて満一歳までは一緒にいたいのが本音だが...。ただ認可に落ちた場合の選択肢は、認可外ではなく育休延長にしようと決めた。

兄弟加点がつくうちに(2名)

- ・兄弟加点が有利なうちに申込みしようと思った
- ・上の子が来年度5歳児のため、0歳児で入園しないと加点がなくなるため。

二人目が欲しい&収入確保の為(2名)

- ・二人目のことを考慮するとこのタイミングで復帰したかったから。
- ・今後の家庭の状況を考えて、第一子は0歳で認可に入れておきたかった。今後の家庭の状況とは、家のローンの返

済のための収入確保、約一年後の第二子計画のため。

育休が1年以上もとれない&ブランクが空きすぎるため避けたい(14名)

- ・早く仕事に復帰する必要があるため。また復職後ある程度働いてから二人目が欲しいから
 - ・1歳での入園も厳しい、また会社では、4月にもどってくる前提の為
 - ・もともと一年以内の復帰予定だった。職場の育休制度的に。
 - ・来年度より、一年以上育休延長している人に加点が加わるため1年しか育休取れない自分は加点がなく保育園に入れないと思ったため。
 - ・申し込みをしました。4月から職場復帰を希望しているため
 - ・一歳四月の復職ではブランクがあきすぎること、また競争率も高いと思われたため。
 - ・会社でとれる育休期間に限界があり、変更に関わらず申し込みせざるをえなかった。
 - ・仕事に早く復帰したかったので、認可・認証両方に申し込んだ。
 - ・キャリアを積むには、0歳での復帰が必須のため。
 - ・復帰が決まっていたので、特に影響しませんでした。
 - ・平成30年4月に復職したかったため申し込みました。
- 諸々の変更は決断には特に影響していません。
- ・早生まれなら育休延長したと思うが6月生まれなので0歳で。

その他(2名)

- ・申し込みした
- ・点数が低すぎて無意味だったから

■ 今回の指数変更は適切だと思いますか？

育休加点は評価する(11名)

- ・自分は育休制度がある会社に勤めていますが、切り上げて0歳で復帰しました。勿論認可保育園には入れず、近くの認証にも入れず、電車を乗り継いで認可外に預けています。しかし早期復職は私には体力的に無理があり、結局途中でうつ病を発症し、再休職になってしまいました。申込を相談した祭、区役所役員からは一歳クラスに加点無しで入ることは不可能と言われ、切り上げ以外の選択肢は私にはありませんでした。今回の指数変更が数年前からあれば、無理して復職せずとも、育休いっぱいまで休んで自分の体調回復し、職場に迷惑をかけることなく、子供の0歳児という貴重な時間を一緒に過ごせたと思っています。0歳児保育にかかる費用は一人あたり50万近くと聞きました。どうしても働かなければならない状況ではない限り、母親にとっても、行政にとっても、0歳児保育をやめることは有意義だと思っています。今回の変更が、ただ加点の為に無理やり復職することの歯止めになると嬉しいです。
- ・加点を得るために認証や認可外に通わせなくて良くなったから
- ・育休が2年に延長された背景に沿っている。かつ、認可ですべてカバーできるくらい受け皿を整備しますよ、というアピールだと思った。前向きな印象。
- ・今までの制度はとにかく早期復帰を促すもので保護者と園双方にとって良くなかった。今回の指数変更によりより長い期間自宅保育を希望する層が休めるようになったと感じたので。
- ・育休加点があれば、2年前に待機児童にならなかったかも...と思っています。
- ・休める人は休むことができやすくやり、良かったのでは。
- ・これまでの加点制度だと、休めるのに育休を切り上げざるを得ない人がほとんどだったと思う。休める人は休み、育休が無い人は早く復帰する...両方、公平になっていいと思う。
- ・認可外保育施設等の加点をなくすことにより、0歳児を加点のためだけに預ける人がいなくなり保育士不足の解消につながるのいいと思います。

・育休は取れるのであれば取りたいです。きちんとした制度ですし。なので、早く切り上げ認可外に預けた人に加点がつくより、育休を取った人に加点がつくという制度には賛成です。ただ、0歳クラスには加点がつかないのは残念です。そうすると、産まれた月によって損する人が出てきます。うちは6月産まれです。育休は一年半までしか取れないとで、最大限育休を取っても、1歳児クラスの申込みまでは育休が取れません。そして今回の0歳クラス申込みではダメでした。せっかく育休取っているのに残念な気持ちにはなりました。

・認可外加点を廃止して、育休加点が功をそうするかどうか…。育休を最長三年取れる企業だから、育休加点が出来たこと自体はありがたいが。

・ポイントを稼ぐために早く復帰したので、このシステムであれば育休をゆっくり取得できたため

早期復帰しなければならない人&女性のキャリア形成は？(16名)

・育児休暇取得率向上を自治体から推奨していく考えには賛同。とくに男性の取得はもっと上るべきと個人的にも思う。しかし休暇を取る取らないは個人の考えであって、取った人に加点を与えるならば、取らずに復帰したくて、そしてやむなく認可外に預けている人にも同様に加点をつけるべき。この育休加点は「子供と母親は少しでも長く一緒にいるべき」という旧式神話の賜物だと感じざるを得ない。働きたい側の人間から見れば大変不愉快。

・育休延長したい人にはいいが、働きたい人、経済的に働かざるを得ない人には不適切だと思う。育休がとれても実際、2年のブランクでの職場復帰はキツイ。

・上の子のときに認可外加点のために復帰前から無認可に預けていたので、私のようにさみしい思いをするお母さんが減るのは良いことだと思う。しかし一度認可外に預けたら育休延長組に勝てないというのはかなりつらい現実かと。

・育休延長したい人が無理に切り上げざるを得ない前年度までの制度が良かったとまでは言わないが、事実上育休延長できない、延長したらキャリアを諦めざるを得ない状況で、認可に入れなければ、1歳以後の認可に入れる可能性が非常に下がってしまう配点は非常に問題。また、認証でカバーしてもらっていたにもかかわらず、認証の経営難・撤退の可能性も生じてしまう。早く切り上げるのを防止するのであれば、認可外加点と育休加点を同点にして優先順位をなくせばよかったはず。また、育休加点が法定以上につきやすい職についている人ほど有利だし、1歳は結局早生まれのほうが優先してしまい、2年に延ばしたところで入れる可能性は低く、不安が大きかった。

・仕事の都合上、家庭の都合上、早く復帰したいと思う人には不利。

・福利厚生充実した企業勤めの人には有利な気がする

・いくら育休期間が2年に延長されたからといって、1歳で入園できるとは限らないし、そもそも中小企業だと2年取得は困難だから。

・長期間の育児休暇の取得は、女性のキャリア構築を阻むと思うため。

・育休延長したい人が無理に切り上げざるを得ない前年度までの制度が良かったとまでは言わないが、事実上育休延長できない、延長したらキャリアを諦めざるを得ない状況で、認可に入れなければ、1歳以後の認可に入れる可能性が非常に下がってしまう配点は非常に問題。また、認証でカバーしてもらっていたにもかかわらず、認証の経営難・撤退の可能性も生じてしまう。早く切り上げるのを防止するのであれば、認可外加点と育休加点を同点にして優先順位をなくせばよかったはず。また、育休加点が法定以上につきやすい職についている人ほど有利だし、1歳は結局早生まれのほうが優先してしまい、2年に延ばしたところで入れる可能性は低く、不安が大きかった。

・育休をできるだけ取れるようにという方向性には賛成だが、この指数変更自体が適切なかは現時点では判断できない。保活のための過度な競争は減るかもしれないけど、育休を取れない人との不公平が広がる？ただ、すべての人に公平で納得のいく指数はないと思っているので、この方針でやると決めたならきちんとぶれずにやって欲しい（微

修正は必要だけど、方針が大幅に変わるのとは一番困る。）

・産後復職が早い順で認可園に入園出来るのはおかしいと思うので、育休を取れる人には長く取ってもらおうという方針自体は賛成です。ただ2歳児以降の申込で下記の問題があるので改善してほしいです。・保護者全員育休不可のフルタイム世帯が0～1歳児の申込時に2点加点されるのは理解できるが、2歳児以降の申込時にも加点があるのは不公平（保護者全員育休不可以外の世帯で2歳児以降の申込時に育休が取れる世帯は非常に限られているので）。・1歳4月で認可園に入園できないと、それ以降に認可園に転園出来る見通しが立たず非常に不安なまま過ごすことになってしまう。（今までは認可外加点のおかげで待てばどこかの認可園には入園出来るという見通しがたった。しかし新ルールでは新たに引越してくる保護者全員育休不可の世帯や下の子育休中の世帯には確実に負けてしまう。また40点同士の争いが熾烈なり、希望順位をどうするかが非常に重要なギャンブル性の高いルールとなっており、3歳4月までに確実に何処かに入れるという安心感が持てない）

・2年育休を職場がどう思うか。権利だからといってうまくいかないこともある

・自営業者と来年度加算される育休者との加算タイミングがずれるのには不満あり

・全ての人が育休を延長できるわけではない。育休を取れない、もしくは早く復帰したい人が不利になってしまう。

0歳、1歳で認証に入れていた人が可哀想。認証ポイントが無くなる真逆の指数変更なので、経過措置が必要だと思う。

・育休加点の導入について、早く復帰しなければいけない人に不利になるのはおかしい。

・入らなかった場合に認証入所、加点を得て1歳で認可園に、と考えていましたが、それが非現実的になり、全て入れなかった場合にどうしたらよいのか、と困惑しました。経済的な理由での復帰をよく目にしますが、それだけでなくやりがいを持って働いている方も多くいると思います。

今回の加点方法の改定は女性が働くことを否定するような改定で全時代的なものだと感じました。決めた方の価値観なのではのでしょうか。

確実に認可園には入れる保証はない(17名)

・2年間育休が取れても2歳児クラスから入所出来るか分からないから結局1歳までに入所しないと厳しい気がする。

・認可外に預けたらもう認可には入れなくなるのではないかと不安。

・制度としては育休は2歳までとなっても、今後の

キャリア形成や実務への影響を考えると、1年でなんとか復職したいという思いがあったので、育休延長加点は非常に不本意。また小規模園ばかりが増えているため、2歳3歳以降の入所への不安は尽きない。

・0才を減らしたいために問題を先送りにして、来年の1才の競争を激化させるとしか思えない。そして今年の1才には逃げ場がなく(認可外加点廃止&保育園に入れなければ育休延長を強いられる)、今回入れなければ詰む。

・育休延長が不可能、また懸念される人への救済措置が何もない。落ちたら落ちっぱなしで、育休を延長するしか生きていく術がない。やむを得ず認可外の施設に入れて加点をして欲しかった。それを廃止されて育休加点とは、それが出来ない人はどうしたらいいのか。あまりにひどすぎる。また、私は区の職員である。しかも保育士であるにもかかわらず、優先もない。また、同一指数で並んだ際にも、区の職員だけ除外されている。同じ保育士なのにひどい。この結果だと区の保育士だから、全てを把握できる杉並区にあえて落とされた、意図的に落とされたと考えてしまう。

・育休を長くとりせたいなら効果はあると思うが、育休終了後の選考も一緒にやって入園が決まらないうと、安心して育休を長くとれない。

・認可外の加点がなくなったことで、第1子の場合は余計に内定が取りづらくなったのではと思うと今後が不安です。

・育休を切り上げて0歳から入園しなくてはいけない矛盾は改善されるはずだが、下記の2点は不安が残ります。1. 1

歳以降の枠自体が少ない。1歳スタートの園を増やし、募集枠自体の確保が必要な気がします。2. 再就職の場合、可能性が皆無。

・産休明けの加点と2月末までに託児できる加点が重なって低いポイントの家庭がさらに入所できなくなるから
・酷い改悪だと思う。育児休暇を可能な限り取れという意図は分かるが、保育園に入れるかわからない不安を煽る酷い変更だと思った。2歳までの保育室、認証に通わせてしまうと、点数が育児休業の加点に負けてしまう。3歳の壁で失業するリスクが高い。今回3歳児クラスで保活をしたが、杉並は全体的に3歳児クラスの枠が少ない。受け皿がないのに点数だけ変えるのでは、意図通りに3歳まで育休延長しても保育園に入れない。退職する可能性に怯え、1,2歳クラスの倍率が高くなるだけだ。

・認証、区保育室に入れたらもう認可には絶対入れないってことだから、0歳児で全て決まってしまう。育休伸ばしても一歳は狭き門だから入れる保証なんてないし。

・認可外保育施設の加点が付かないという点について、0.1.2歳園を卒園した後、保育園に入れるのが不安。認証保育所が人員を確保出来ず減る方向になると思うが、それで良いのか？など。

・認可外加点の廃止で、認可に落ちて認可外に入れてしまうともう認可に入れる可能性がなくなると危惧しています。しかし、1歳4月まで育休延長はできないので認証に入れるしかないです。認可に入れるために育休延長して失職するのは本末転倒です。

・確かに今までは行政が職場早期復帰を促す結果になっていたと思う。しかし、認可が不足しているために落選しやむを得ず認可外に入所した場合、加点がなく一向に認可に入るチャンスを失うのはいかがなものか。

・育休を取る気にはなるが、またみんな同じ点で並ぶから入れないと思う。

・8ヶ月からの園だと、8月以降に生まれた場合、兄弟同じ園に申し込むには育休を延ばすしか選択肢はなく、今年の四月に職場復帰するには別園に申し込まざるを得ない。

・育休加点は評価できるが、認可外加点廃止は復帰しなくてはいけない人にとっては認可転園可能性が低くなるためどうなのか...と思う

・育休延長しても保育園に入れず、保育園問題が先回しにされているだけな気がする

急な加点方式の変更で予定が狂った・・・(12名)

・私は一次は落ちたのでおそらく今年は押さえていた認証保育園に行くことになるのですが、そこの認証保育園は1歳児までの受け入れなので来年もまた保活をしなければなりません。もともと認証加点を見込んでいましたが、指数変更で認証加点も育休明け加点も貰えず来年も加点なしでかなり不利になります。このように指数変更によって明らかに不利な人が出てくるのは制度として不適切だと思います。指数変更を秋に発表されても、育休延長をするのもそんなに簡単ではありません。認証の補助額が高くなっているようですが、そもそも認証にも入れなければ意味がない。

・月齢の関係と、0歳が激戦であることから、自主的に1歳半ぎりぎりまで育休をとりました。1歳も激戦であることは重々承知の上だったので、昨年度末から認証保育所にエントリーし、四月から認可保育園へは入れなくても認証保育所に預け、2点加点をもらい、2歳クラスで認可保育園へ預けられればいいという長期的なプランを立てていました。それが、認証へ預けても加点なし、育休加点ありとの指数変更。しかももう育休延長できなくなってしまうからの指数変更です。それならば、0歳で無理やり認証に預ける手だってあったのに。この変更のせいで、うちの子と同じ1歳四月入園を考えていて育休をフルで取った家庭は永遠に加点がつかなくなりました。ということは、2歳も3歳もどうやって入ればいいのか？区の担当者に問い合わせたところ、穴になる家庭が出て来ることも把握していませんでした。誰かが不利になるような突然の指数変更は納得できません。移行期間が短すぎます。

・どうしても平成30年4月に復職したかったので2歳までの認証保育所を抑えていましたが、変更により意味がなくなっていました。せめて経過措置がもう1年あればよ

かったのにと思います。1歳4月にも再度申し込みができますが、早生まれの子のほうが有利なので、楽観的にはなれません……。なので認証保育所に入れるようであればそうしたいのですが、その場合、加点が廃止されるのももう認可には行かれないと思うと残念です。

・保育園に入れない人を優先すること、人手を厚くして保育する必要のある0歳児入園のインセンティブを減らすことで全体の受入人数を増やすことなどの意義があると思う。一方で、今回制度の移行期間の影響で、自身は今年育休中のポイントがつかず、来年は認可外ポイントがつかないという不利な状況となり、やや不公平な感じを受けた。

・30年4月入園で1歳児申し込みをしたが、現在認可外の園に通えてないので加点が無い。1月現在認可が内定したので、仮に4月から認可外に通えたとしても、30年4月からは認可外加点が無いので31年4月申込はまた不利になってしまう。12月に育休が切れるので、31年4月入園まで育休を取り続ける事が出来ない為、育休加点も取れない可能性が高く、加点が何も無い状態でまた申し込みに臨まなければならない、とても不利な状態。なぜこのタイミングで変更したのかと憤りを感じる。

・1)指数という重要な根幹のルールを変更したにも関わらず、その情報開示が10月の申込書配布時であり、遅すぎる。保活は春ごろからすでに始まっており、変更前の指数を前提に保育所を見学しているため、10月以降に改めて候補保育所を見直し、新たな候補保育所の見学に行かなければならない。2)現状育休中で1才児クラスに預けたい家庭が不利になる。30年4月入所で認可に入れなかった場合、復帰せざるを得ない状況で認可外に預けると加点にならず、31年4月以降、認可への入所がより困難になる。区の窓口相談したところ、「加点のことを考えれば、育休を延長するのがよい」と言われたが、一般企業ではさらに育休を延長するのは無理。せめて、従来の認可外の加点をそのままにして、育休の加点ポイントも加えるほうが公平である。3)「育休をとっている家庭に加点」という指数変更の考え方そのものが、現在育休をとっている人の復帰を阻害していると思う。区にとっても、育休を長くとするよりも早期に復帰してもらうほうが納税額も増えてよいのでは？

・今回のような大きな変更は、期間を設けたり、段階的に変更すべきと考えます。個人的には、第1子の時には、認可外に預けた期間の調整指数で認可に入れず苦悩し、今回対象となる第2子はその経験も踏まえて認可外に預けて認可に転園することを1年以上前から計画していたため、今回の指数変更について大変困惑しています。また、今回の変更により、一度認可外に預けた場合、転園が非常に難しくなると思われますが、3歳以上の幼児にとって、十分な環境の認可外施設は少ないと思います。様々な事情で最初認可外施設に預ける保護者やいずれば認可と思う保護者も多いと思いますが、今回の指数変更により希望がもてなくなります。

・加点のためだけの本来の希望に反した育休切り上げがなくなるので、育休加点が導入されたのは良かったが、認可外加点廃止は不適切で、育休加点と同点で残すべきだった。不適切ではあるが、認可外加点を復活させて2転3転するのはもっと望まない。来年、育休加点で入園できる見込みだからこそ育休延長に踏み切った人を、裏切ることがあってはいけないと思う。それより、今後も認可を継続的に増やすことに注力して、基準ポイントが低くても、加点がなくても入園できるようにしてほしい。

・認可外の調整加点の経過措置は短すぎる

・本当に認可外が必要な人がいるので、致し方ないと思います。ただ、有効期間がもう少し余裕持って発表されるか、設けて貰えば良かったのではないかと思います。

・育休を取れなかった方が救われない

・今回が初めての申し込みであり、これまでの指数をもとにした選考だったので我が家には特に影響なく何とも言えません。来年度以降については、提示された指数の基準に合わせて計画的に動くつもりです。

認可外加点を戻してほしい(7名)

・人によって休みが取れたり働きたかったり、事情はバラバラなので認可外加点は残してほしい

・育休している人に加点なのはいいが、認可外にしか入れなかった人を加点対象から外すのはいかがなものか。
・認可外での加点は廃止にしてほしくなかった。
・育休加点には反対しませんが、認可外加点をなくすのは間違っていると思う
・仕事を復帰せざるを得ず、認可に入れず認可外に預けた場合、1歳・2歳・3歳とも育児休業加点に負け、3歳では卒園加点に負け、4歳・5歳では定員増加がなく5歳の卒園まで認可外に預けないといけないことになります。認可外にもよとは思いますが、私の見てきた範囲では3歳以降の子供はほとんどおらず、同年代の子と接する機会がありません。3歳以降で同年代の集団で切磋琢磨できない生活環境はあまりよくないと考えます。認可外の加点を復活してほしいです。
・今回落ちたら認可外には入れずに育休延長した方が2歳から認可に入れる可能性が上がる、と区役所の方に言われたため、育休加点を勤務先に説明して、認可外に入れるつもりはない旨を伝えたと理解を得られず、他の区に住む同僚たちは0歳で4月から認可外に入れて復帰するのになぜ？という反応だった。東京都、もしくは23区で足並みをそろえて欲しい。
・認可外加点がなくなり、育休延長加点に変わる点が大いかなと思いますが、認可に入るために早く復帰する風潮にそもそも違和感を感じています。私の子どもは早生まれでした。早生まれは生まれた時点で既に認可外に入れる可能性も低いです。それを踏まえると、育休延長加点も無くして欲しいとは思いますが、まずは認可外加点が無くなった点は健全な仕組みかと思っています。ただ、認可にこだわらず、まずはどこかしらに入って欲しいという割に、認可外加点を無くしたことは矛盾もあるとは思いますが。

その他優先項目に対する意見など(11名)

・近隣に保育可能な祖父母がある人と同じ土俵に上げられて。その上こっちが落とされるとか本当ありえない。
・近隣在住の65歳未満の祖父母の状況を減点対象にしなかった。
・近隣に祖父母がいるいないは大きな違いであると思う
・近隣に協力できる祖父母がいないこと、を廃止する必要性を感じない。また、認証加点の廃止はメリットデメリット両方あるが、小規模認証の経営が圧迫される可能性があるのではと感じた。
・認可外加点のため早期復職が当然という歪みは取れると思う。また、近隣祖父母の項目は不当だと思っていたので(近隣市区町村に住んでる無職家族に保育園並みの預かりを要求するのはおかしい)削除になって良かった。
・何故、働きたいから保育園を申し込んでいるのにも関わらず、認可外へ預けた実績が加点対象にならず、育休延長の方が加点対象になるのかが分からない。指数変更の際には、区側の意図を明示して頂きたい。祖父母の住所を書く欄が削除になったことは良かったが、家庭ごとに様々な事情がある中で、そもそも近隣に住んでいるからと言って優先順位が下がる対象だったことが不本意である。
・育休期間をフル取得することが実質的に奨励されるルールになったことは、当たり前の権利を当たり前に行使できるよう後押ししたと評価している。一方で依然として世帯年収といった経済指標より居住歴が優先する調整指数のルールは、本当に保育を必要としている人に公的なサービスが行き届かないように感じる。
・高所得者が不利なところ。
・たまたま一年引越して戻ってきただけなのに、一月時点の居住歴で優先度下げられいままで支払ってきた住民税はなんなのかわからなくなった。また認証も認可も見学の際余裕がなさそうな雰囲気です。子供を預けて安心なのかも同時に気になる
・夫のフリーランスの仕事の資料は面倒だが、資料をきちんと揃えればフルで働いてる20点を貰えたので
・兄弟加点があって、本当にありがたかった。

その他(8名)

・近隣の祖父母がいるか、保育室に加点なし
・どの子ども点数ではなく、選択できる環境を作りたい
・育休が年度の途中で満了した場合、4月時点で育休を

取っていないことになるのか？

・今回の指数変更が今後どういう動きになるか分からず、適切か否か判断できない。
・育休制度に関係が無かったことと、認証から認可に移る、新規の保育園に申し込むなど、指数は問題なさそうだと考えていたためあまり気にしていなかった。
・今年の申し込みには今回の指数変更の影響はあまりなかったように思います。
・4月以降の認可外加点の廃止、育休制度の加点など、どのように選考に影響するか不安
・現在は小規模保育室で、2歳児クラスでようやく認可へ。ギリギリ今年であったため同一指数での調整で優先されたのかなと思いますが、来年だったらと思うと内心ヒヤヒヤしました。

■ 保活開始から今回の選考結果を振り返って、どのようなお気持ちですか。感想をお書きください。

新設園効果で内定、区に感謝 17名

・3年連続の保活でしたが、年々易化している印象です。杉並区の努力のおかげだと思います。
・新設園がどんどんできてきて、希望が分散され競争が少し減ってきている実感はあります。杉並区がんばってると思う。
・地域のバランスを見て認可保育園を増やしてくれていると思います。ありがとうございます
・自分自身や周囲を見ても、上の子(3年前)の頃よりはだいぶ入りやすくなったと感じた。ただ、新規園や小規模園が多く、ある程度(保育の質、家からの距離、設備など)妥協をしているのが前提にあるので、まだまだ改善は必要だと感じる。
・認可内定までトータル三年かかった。厳しかったが、保育園を新設してもらい助かったので感謝している。
・杉並区は頑張っていると思います。応援券もいただいているし。だから子育て家族が集まってしまうのだと思います。職場の他の区の人のが大変そうです。
・3歳でようやく認可に入ることができて安心した。新設園がたくさんあれば、今年も無理だったので、増設に手を尽くしている区には感謝しかない。ただ、復帰後も保育園見学のために有休を度々取るのは、周囲にも気を使い、本当に疲れた。何年も保活を続ける人がいなくなるようになってほしい。
・保育園を増やしてもらえてとても嬉しかったです。認証保育園に入り、金銭的な不安はあったものの補助制度もありとても助かっています。
・自分が保育園に入れたから言えるのかもしれませんが、一度保育園を作るのを中断し、質や制度の見直しなどに時間をかけたら良いと思いました。
・区役所窓口の担当者の熱心さ、親切さはありがたかったが、そもそも保育園が足りないのは区政の怠慢。子どもたちは将来の納税者なので、そこを増やさなければ未来はない。区に要望を届けて欲しい。

数年越しの内定、長かった 16名

・来年小学生になる上の子が3園めでやっと今の認可、今回申し込みした下の子は昨年きょうだい加点でも同じ園に入れず3園めで今回同じ認可に決まりました(上の子はもう卒園ですが・・・)保活に翻弄され続け2人で6園、そのたびに慣らし保育もあり疲れました。

・働きながらの転園2回!!本当にしんどかった!私は努力で勝ち取ったけど、今後認可外加点もなくて努力のしようもなくなりますね。益々地元民=居住年数長い人が優遇されるのかと思うとこれからの保活組がかわいそう。
・2年前から保活をして、認証に入り、今年から認可へという流れです。始めた時は産まれたばかりの子と、
・イヤイヤ期に入り始めた子連れて沢山の園に見学に行くのはとにかくしんどかったです。夜遅くまで保育園について考えたりもしました。私は求職中でもあったため、保育園に入れても仕事が決まらずお金だけ出ていったらどうしよう、ずっと保育園に決まらずお金が無くなったらどうしよう考える日々でもありました。認証保育園に入れた

ことは本当に幸運だったと思います。その結果もあり、今回認可へ決まりました。振り返っても、ただただ運が良かったとしか言えないです。

・主人の転勤からの再就職でした。休職中の昨年は通らず、一年認証に通い今年は通りました。昨年の保活で疲れ果てました。第二子なので保活は二度目ですが、もう二度と経験したくないです。少子化、当然です。

・1年待ってやっと兄弟のいる園に入れた。園によって兄弟ポイントが1ポイントで入れる入れない偏りがあり、兄弟ポイントが活かされていない。なぜ1人目が認可にいるのに、2人目も保活させられるのか。3人目なんて絶対生みません。ほかの区ではありえないし、ひどいと思う。二箇所の送迎時間がある為、結果的に長く預けることになり、お互い無駄がでるだけ。保育料も無駄に払い、時間とお金を返してほしい。1人目もちろん1人目は保育室。やっと認可に入れたのに、2人目もまた入れなかった。ひどすぎる。

■報われた努力と報われない努力 16名

(内定) 4名

・希望の園に入れてあげることが不可能に近いことを思い知り、様々な情報を収集して臨まないといけなことがショックだった。

・本当に内定をもらえるかは不安がありましたが、事前の下調べをもとに計画的に物事を進めたことが功を奏したと思っています。

・元々住んでいた中央線沿いから、保育園の事を考えて西武寄りに引っ越したので満足のいく結果でした。主人が不安定な自営業のため、40点満点に満たないと区役所での申し込みの際に言われましたが、昨年度もこの辺りは40点未満でも入園している方がいたので杉並区内でもかなり入りやすい地域なのだと思います。

(内定せず) 11名

・妊娠中から色々な保育施設を見学に行くのが地味に大変だった。結果が来た時は、予想は出来ていたけれど、全てを否定されたような気持ちになった。

・妊娠中から園を回して見学し、出産後も子供を連れて必死に見学して探して疲れた。つらかった。

・時間をかけて色々な園を見比べたが、申し込みの段階では結局倍率の低そうな園を選ぶしかなかった。しかも、結局すべて落ちてしまったのですべて無駄になったように感じる。

・何件も保育園の見学に行ったにも関わらず、2次募集は見学のできない新設園が多く、説明会等も行われなところが多いため非常に不安。

・自分なりに調べて臨んだが、想定内の結果だった。保活を通して地域や行政の保育・育児サポートについて知れたことは新しい人との出会いや自分の地域社会への参画意識醸成につながったので、大変良かった。来年度の保育園入所申し込みまでに、児童館や図書館などのプログラム参加からひととき保育など一時的な保育サービス活用など、積極的に利用していきたいと思っている。

■突然の指数変更に翻弄され 12名

(内定) 5名

・妊娠中からかなり戦略的に保活したが、認可外加点廃止で万一落ちた時の認可外に預ける技が使えなくなり、予定が狂って大変焦った。

・区の方針がいきなり変わったため、当初認可外に預けて今年四月に仕事復帰する予定が狂ってしまった。結果的に姉妹別園になってしまい、もう少しなんとかしてもらえないかと思う。四年間別園はしんどい。かといって更にも一年も休暇をとるのは、職場にかける迷惑を考えると出来なかった。

(内定せず) 7名

・妊娠中から色々調べて計画を立てて保活をしてきたのに、指数変更で今後のプランが変わってしまった。今年はひとまず認証を押さえているが、1歳までの園のため、来年度の保活がかなり不安。保育園に入るのにこんなに多くの時間とお金(認証を押さえるのにもお金がかかる)の負担が大きいのはおかしいと思う。

・指数変更により、1年以上前から計画していたプランが

変わってしまい、非常に残念でやりきれない気持ちです。

・妊娠中から様々なシュミレーションをせざるを得ないことから、劇的な指数変更はやめてほしいです。せざるを得ない場合は、周知期間を十分に取ってほしいです。認可に入らなかったことには変わりないので、認証保育所と同様、事業所内保育所に通う子どもにも、保育料を一部助成してほしいです。そして何よりも、指数を考えなくても良いよう、保育園の数を増やしてほしいです。

・産休前から区外含めた認可外を見学しており、認可外加点ありの前提で真夏に首も座らない子を連れて保育園を見学していたにもかかわらず、10月の突然の変更でそれまでの保活の意味が半減して徒労感を覚えた。また、育休2年とするということは第二子を諦めるかキャリアを諦めるかという選択でもあり、4月復帰が出来なくなるのではないかという不安もあったし、9割9分母親が育休をとっている現状で、育休加点をつけること自体、母親が育休延長をすることを前提としてしか考えてなかったのではないか。加点方法が申請日時点ですら1日でも育休であれば育休加点ということが後に判明したが、加点方法が申請時点で全て理解していれば通うのが大変な園まで申込をしなくてすんだのに、質問しても正しい答えが返ってこなかったのが悔しい。駄目だった場合は3月のシッターも視野に入れて認可外加点をつけるつもりだったが、そもそも3月に認可外施設に月極で入れる可能性は非常に低く、経過措置ありとはいえず0歳児には事実上適用の可能性は低く(シッター費用をもってまで行う人は少ないのでは)、保活が産前、下手したら妊娠時期も含めて始まっている現状では、周知期間が短すぎ、経過措置とはいえないと感じた。

■予想外の内定、運次第 10名

・努力が報われる活動ではないと感じていたため、保活は最低限のことしかしなかった。最悪、勤務先の事業所内託児所を利用するつもりだったが、たまたま運がよく新設園に内定できた。今年でなければ落ちていたと思う。運頼みや噂ベースで皆が右往左往する状況に早く終止符を打っていたきたい。

・正直ほっとしています。が、タイミングよく新設園があり、タイミングよく入れたという印象なので、本当に認可内定は厳しいなと思います。

・噂には聞いていたが、本当に居住歴が重要視されるのだとわかってゾッとしました。結婚前から杉並区に住んでいて、結婚後も引っ越さなくて良かったです。色々保活なるものをつもりではあるけど、結局はこちらから何かできることはほとんどなくて(見学しようがしてまいがあまり関係ない)なんだかな...という気持ちです。

・入れるかどうか不安だったし、たくさん見学に行ったが、行ったところで選べる(入所できる)状況じゃないんじゃないか...とも思ってたかなりしんどかった。結果的に内定をもらえたが、先がわからないままの育児、育休は精神的負担が大きいと感じた。

・現状を踏まえると、小規模保育所に入園できてラッキーだと思うが、保活を通じて杉並区で安心して子供を産み育てたいと思えないと正直思ってしまった。自治体だけでなく国としての問題でもあり、少子化なのになぜ?と疑問符が止まらない。

■赤ちゃんとお過ごし貴重な時間が減った 8名

・自力で解決できることが少ない保活という活動で、正直子どもと向き合って保育をする時間が減ってしまった気がする。入れる、入れないの不安がなければ、もう少し心穏やかに過ごせた気がする。

・大切な産休、育休の時間を削ってまで保活をしたものの、結局内定できずだったので、どうせできないなら最初から赤ちゃんに触れ合う時間をもっと大切にしたら良かったなと思いました。無駄ではなかったと思うものの、保活って何なんだろうと思う虚しさを感じています。

・私自身は認証1園の申し込みだけで、徹底的に保活をした訳ではありません。それでも、保育園のことを考えることは多かったですし、大きな不安要素ではありませんでした。結果的に保育園の内定をもらいましたが、保育園のことを必要以上に考えず、安心して育児に取り組める産休育休が過ごせれば良かったなと思います。

・子供と向き合う育休の期間に、保育所に入れるのか、自分は復帰できるのかという不安が常につきまとっていた。希望者が全員保育所に入れば本来は不要な不安のはず。自分の状況と指数、昨年の応募状況やボーダー得点を照らし合わせながら、希望保育所を書いたが、内定する確率を優先して、実際に入りたい保育所は書かなかった。これも保育所が十分にあればあまり気にしなくてよいことだったと思う。常に不安と本来は不必要と思われる計算がつきまとう保活だった。そもそも保活ってコトバ、なに？って思います。みんなが入れば存在しないコトバ。

■不満、現実 is 厳しい、後悔、他、不承諾 15名

・決まらなかったのも、ここからしばらく必死で悪あがき（望の薄い努力）をしなければならぬと思うと、正直なところ疲れてしまいました。早く楽になりたいです。（といっても無事決まって復職することはそれはそれで決して楽ではないのですが……。）
・国も都も区も本気で少子化を解決する気などないのだということがよくわかりました。
・がっかりした。理不尽。報われない。
・もっと認証申込みしておけばよかった。一つにしていたので不安で仕方ない。
・辛いしかありません。こんなに苦労して知らない人と競い合って、内定を貰えない敗北感。マイナスしかありません。子供を育てながら働くって生きづらいなんて想像してなかったです。
・なんで少子化なのに預け先がこんなにないのか不思議。シッター補助早く始まってほしい
・一次で決まらなかったのも、やはり現実 is 厳しいなという気持ち
・指数が低いので、兄妹2人とも内定は難しいと思っていた。兄の方だけでも内定したことに正直驚いた。しかし、二次調整で妹の方が決まらなかったらどうしたらいいのかわからない。認証保育園は補助金が出て経済的な負担が増えるし、今後の加点のことを考えても出来れば認可にいたい。
・去年海外駐在から帰国し、杉並区の自宅（持家）に戻りましたが、現在私が育児休業中のため上の子が認可に行くことができず、認証保育園に通っています。が、3歳以降の子は2人しかおらず、子も同年代の友達をほしがっており、私もこのままの状況ではよくないと考えています。（保育園はとてよくしてくださっており、満足しています）
・4月からは上の子は認可・下の子は認可外（結果待ち）ですが、下の子もずっと認可に入れず同じような状況になるのではと危惧しており、3歳児以降どうすればよいのかを1次の結果がでてからずっと考えています。

■内定したが不安、不満、疲れた、他 18名

・とにかく疲れた。杉並区は保活が大変だという情報は妊娠前から耳にしていたので、妊娠確認後すぐに悪阻で苦しむ中情報収集。役所で聞ける情報は保活全体の半分くらいしか締めないにも関わらず、認可の結果如何でその後の様々な対応が変わるので、振り回された。とにかく1年半とても疲れたので今は内定が出てほっとしている。
・また希望通りにならず、本当に落ち込みました。兄弟別々は最悪です。どうかしてください。
・一次で決まってよかったけれど、希望園ではなく3歳保活もあり、複雑。
・疲れました。もう行いたくないです。再休業時がH30年度申し込みと重なり、区役所員とのやり取りが面倒でした。（治療方針や休業期間も保育園に関係するため）
・子供センターに必要書類を確認して揃えて提出したが、後からさらに追加で書類が必要だと言われ、それが出せないという優先順位が下がると脅された。こちらは初めての子で職場へ復帰しなければならぬのでミスのないように予め確認したのに上記のような対応をされた。現在は入所出来たからよいもののそーゆー対応はどうかと思った。全く役所の人間は信用ならない。

■ 区への要望があればお書きください。

量の改善 14名

・絶対的な数が少ないです。
・とにかく保育園に入りたい人が苦勞なく入れる環境を一刻も早く整えてほしい。よろしく願います。
・指数を考えなくても良いよう、保育園の数を増やしてほしいです。
・若い世代がどんどん杉並区に入ってくるなど大変ではあるが、保育園確保は少子化歯止めのきっかけにもなる事業なので、国に対して杉並区がモデルになるくらいに力をいれてよい事業だと思います。多々ちぐはぐな政策が見受けられるので頑張ってください。
・そもそも保育園が足りないのは区政の怠慢。子どもたちは将来の納税者なので、そこを増やさなければ未来はない。
・とにかくホッとしていますが、ツイッターで見ていると、入れなかった方の中には兄弟がいて自営業、仕事が保育士、片親、など入所してしかるべき方々が多く見られます。一刻も早い改善を区は提示するべきだと思います。
・40点で普通に希望するところにみんなが入れるくらいにしてください。現在育休中の人には就労時、税金をきちんと納めていたはずなのに、いざ行政サービスを受けようと思ったときに受けられないという現状に大変不満を覚えます。保育所に入れて復帰できれば扶養者から納税者になり、区としても経済的にメリットがあるのだから、保育所の問題にはいま一層誠実に取り組んでほしい。

■量だけでなく質の改善 16名

（チェック強化）
・園を作るだけでなく、そのあとの運営開始後も、新設園は特にきちんと運営がなされているか、保育士の不足がないかなど、細かくチェックしてほしい。
・これだけ保育園ふやしていただけて感謝しますが、個々の園の運営にまで目が届かない状況になっていると思うので、質の担保・引き上げもしっかりやって欲しいです。
・園庭もないような認可保育園を作るのはやめてほしい。保育園は数を増やせばよいものではなく、質も求められます。ビルの一角にある園庭もないような保育園、10月下旬の段階で園長すら募集しているような業者を認可にしてしまつてよいのか、もう少し審査を厳しくしてほしいです。
（保育の充実）
・園の見学をして、運営状況が危なっかしいと感じる園もありました。新設園はハード面ばかりが充実し、ソフト面がすっからかんというところが多そうです。園長も含め保育士の経験不足がこれからの課題になってくると思うので、その点の手立てを考え、改善してほしいです。
・たくさん保育園を見学した中で区立園はどこも保育の質が高いように感じました。できれば区立園の縮小はしない方向で、それが無理なら区立園で培ったノウハウを保育園運営経験の短い私立園等に伝えられる仕組みづくりをしてほしいです。
・小規模保育所は1歳児クラスまでが、環境的に限界だと思えます。2歳児クラスになると、3歳の子が増えてきて活動量が増えるし、狭いスペースしかない小規模保育所ではオモチャや遊びも限定的で、子供の成長にとって良い環境とは言えないと思います。この1年、毎日毎日、お迎えの時は子供はプラスチックのままごと食材でしか遊んでいなかった。もう少し、狭いスペースでの遊びの工夫等について、区から指導してほしい。
（保育士処遇改善）
・保育の質の良さを確保するため、スキルの高いまたは経験のある保育士への処遇を向上して欲しい。

■地域格差の改善 8名

・以前にも要望を出しましたが南荻窪周辺に園を増やしてください。今年たくさん新設園（小規模含む）ができましたが、ひとつもありません！
・地区によって保育園の配置に偏りがあり、入りやすい地域とそうではない地域の差がおおきすぎると思います。
・井の頭線沿いに1歳から入園できる保育園を増やしてもらいたいです。
・区境に近い場所でもっと認可保育園を作してほしい。

・西荻窪周辺は認可保育園、5歳まで通える認証保育園が少なすぎる。

■希望した時期に入園したい 14名

(0歳児で申込まざるをえない状況の改善)

・1歳児クラスで申込をしたかったが、激戦区なので早目に切り上げた。必ず保育園に入ればもう一年子どもと一緒にいたかった。

・できればもう一年育休を取って子供と一緒に居たかった気持ちですが、上の子の時(5年前)のように保活で疲れ果てることが嫌だったので、兄弟加点のあるうちに下の子を入園させる決断をしました。兄弟加点がなくても、1、2歳児からでも、安心して預けられる受け皿をもっと増やして欲しいと思います。"

・「産休が明けた月のうちに復職」というルールを見直してほしい(命は産まれる日を選べないため。この制度のために産後負荷のかかる母子&職場は多い)。

(1歳児枠の拡大)

・育休取得のポイントには基本的には賛成です。0歳児保育は費用もかかりますし、できれば一緒にいたほうが子供の為に思うので。ですがもともと1歳の枠が少ないです。費用、広さなど制限がかかる0歳児を減らしてでも、1歳枠を増やして欲しい。

・育休を最大限利用できるように、0歳枠を減らして、1歳枠を増やしてほしい。そもそも0歳は家庭の事情で仕方なく就業する場合のみにすべきと考える。基本的には育休期限切れ後、入園という方針が望ましいのではないかと。1歳入園が厳しいから、0歳から入園させるとするのは、子供も親も社会も不幸な状態であるとする。

(年度途中の入園希望)

・新卒じゃないんだから4月入園にされると再就職の時に困ってしまう。就職が良いところがあっても4月まで待ってもくれないし4月に入園できるかもわからないから採用されない。

・2歳まで育休を取得できれば良かった。途中入園ができないだろうという見込みからこのタイミングでの復帰となった。

(入園保証)

・長く育休を取得するには1歳のときに認可保育園に入れる保証が必要だと思うので、検討してほしい。

・立川市などが実施している満1歳からの入園予約制度があれば0歳から預ける人が減ると思います。

(0歳児で申し込みたい人への対応)

・1歳から保育園ではなく、0歳で預けて働きたい人への対応も考えた方が良くと思う。

■制度の改善 8名

(保育園増設に関して)

・子供世帯が増えそうな地域を予め予測して保育所を新設して欲しい。

・「保育園へ土地提供意思がある」人には税制を優遇するなど、保育従事者だけでなく、周りの方にとってもメリットのある方法を模索して欲しいです。

・現在、荻窪地区のいたるところで、もともと古い一軒家だった場所に4階建てのアパートが建ってます。一箇所ではなく、複数です。さらに荻窪は現在建設中のシャレール団地の追加分がそろそろ完成します。荻窪は5丁目の駅前に保育園が集中しており、南地区、特に団地付近には1件(リトルパンギンズ)しかありません。団地が完成した暁には、子供が加速度的に増えます。杉並区にアパートやマンションを建設する際は保育施設を併設する等の区の条例が必要だと思います。

(保育園見学予約)

・見学も、各園に電話するのではなく、ウェブ上で1つのプラットフォームを作り、各園の予約状況が分かったり予約ができたことでシステムティックな仕組みを作してほしい。

・保育園の見学の際、各園に電話するのが非効率。受付を全てWeb管理とか窓口一本化すればいいのに。17園回ったのは少し大変でした。

(事業所内保育への補助)

・事業所内保育でも認可外と同様高額な保育料を支払っているのに、認可外でもらえる補助金が事業所内保育だと対象外だということも納得がいきませんでした。事業所内保育でも補助金の対象となっている区もあると聞きますので、再検討をお願いします。

(その他)

・認可認証、認可外、保育室などニーズに合わせようと努力されているのは分かるが、申込方法から結果から色々ありすぎてもう少し統一して欲しい。

■選考基準の改善 23名

(認可外加点) 11名

・認可外加点廃止の撤回。区役所で長く育休をとって子供といほしいから認可外加点廃止になったと言われましたが、認可外に入れる理由は点数稼ぎだけではなく、育休期間の関係でやむを得ない人がたくさんいます。認可外に入れても、入れなくても点数に違いがないなら各自状況に合わせて選択するのですから、認可外に入れた人が不利になる制度は問題があると思います。

・区内でどこも受け入れ先がなかったので区外の認可外(事業所内保育)に預けたのに3歳児申し込みの際に卒園ポイントや優先がないのは本当に困ります。

・新しく追加された「育休取得者にポイント付与」に驚きました。私も育休取得者で得をする立場の側の人間でしたが、このポイント付与は、雇い止めされた人や育休制度のない人を追い詰めるだけでは?と感じました。

(居住歴) 5名

・杉並区に長く住んでるかどうかは保育の必要性とは全く関係がないので、それを調整要素として入れるのは行政として間違っていると思う。他の行政サービスは住んだその日から受けられるわけですし。

・祖母の代から杉並区民ですが、そういった長年の居住者をもっと大切にしたいです。

・居住歴を重要視するのであれば、もともと住んでいて、数年区外に出ていて戻ってきた人には前の居住歴をカウントしても良いのでは...?

(兄弟姉妹関連) 1名

・兄弟の転園枠を確保してほしい

(祖父母)

・地元民ばかり優遇されていて本当に腹立たしい。頼る親や持ち家、地縁もない孤独なお母さんをもっと応援してあげてほしい。65歳未満の祖父母の項目や認可外加点が廃止され、祖父母を頼る地元の人ばかりが人気認可園を独占する現状は、さらに加速するのかなと思う。シングルマザーを優遇するなら保育に関わる人数が多い人は後回しで良くないですか?

(所得)

・裕福な家庭が園に入りやすくなってどうしても早急に働かないと破綻する私みたいな家庭が園に入れないのが法的にも矛盾している。

・区は本当の保育の必要性をみてははなく、勤務内容とか世帯収入が妻側が支えてる場合など、考慮すべきポイントが欠如している。

(その他)

・育休加点は、せめて四月入所申し込みまでその加点を継続させてほしい。加点があったとしても、年度途中の入園はまず無理なので。

・通勤時間が長いので延長保育を実施している園でなければ入園できない状況がある→加味して欲しい

・一人一人に点数を付けて、上から順番に採用枠を決めてほしい。生まれつきによって不利になるシステムを是正してほしい。

■3歳以降の受け皿の改善 9名

・3歳児以降の受け皿をどうすると考えているのか。

・年齢上限のある保育所がたくさん出来ており、子も小規模保育所だったのでとにかく3歳の壁が不安だった

・今年、区の東側は新設園がたくさんあったので3歳クラスに定員割れが起きているが、区全体の定員枠と申し込みを比べるとほぼ同数なので、新設がない地域では3歳の壁があるはず。遅くとも3歳には認可転園が叶うようにして

ほしい。

・小規模入園したこも卒園前でも加点すべき。もしくは卒園後の入園先を用意すべき。区界に住むために練馬区の施設に通っていますが、私立幼稚園の預かり制度が杉並区は充実していないため、0歳から就学前までを保育園で賄わなくてはいけないのはハードルが高く感じます。点数変更でより2歳、3歳以降での復帰を促すのであれば、幼稚園の預かり制度充実を進めてください。

・小規模保育所が乱立し、卒園加点のアドバンテージが形骸化している。

元々小規模卒園後は提携園に優先的に入園できるようにするというシステムだったはずだが、提携園さえ決まっていなくてもほとんどそのまま運営しているのが現状で、人気が低く、人気が低い。

もう少し3歳からの保育にスムーズにつながるシステム確立を推し進めなければ、増やしたものの今後どんどん淘汰されていくと思う

■保育士を増やす取り組み 0名

※保育の質向上を目的とした保育士処遇改善は4件あったが（質の改善にカウント）、保育士確保を目的とした意見はなかった。

■情報公開の改善 19名

（指数変更等の発表時期）

・保活が出産前、下手したら妊娠時期も含めて始まっている現状では、周知期間が短すぎ、経過措置とはいえないと感じた。

・大幅な変更があるときは、保活開始前までに発表してほしい。結果として今年度の保活時間が無駄になったので。

・指数変更は、数年前から計画、公開してほしい。職場との調整が必要な育休計画や2人目以後の出産計画に大きく影響する。特に今回のような大きな変更は、期間を設けたり、段階的に変更するなどしてほしい。

（指数変更の説明）

・指数変更へのきちんとした説明をしてください。今回予想せず加点がつかなくなった家庭は今後どのようにすれば認可保育園に入れるのですか？

（保育相談窓口の回答の統一）

・特に変更のあった年だったからかと思うが、回答が二転三転していて、以前の回答が信頼できない。解釈等については書面で回答する（区職員の手元にも同じ回答が残るようにする）、回答内容は全て共有するなどブレがないようにしてほしい。

・こちらの言い回しや窓口担当者によって回答が変わるのは大変困る。

（ホームページの充実）

・保育施設の一覧の住所の文字を、クリックするとグーグルなどの地図へリンクするように設定してほしい。和泉1丁目、などと文字で見てもよほど土地勘がない限り周辺情報が分からない。例えばグーグルマップに飛ばしてくれれば、自宅や職場、最寄駅からの距離や、路線バスでの経路なども検索できるので、園の候補が広がることで申込が分散する可能性もあると思う。

・指数に関する質問など、問い合わせがあった内容をQ&Aにしてホームページで公開してほしい。

・調べ始めると保育園の件数は増えていたが説明会などこれらの情報が追いか・保育園マップなど最低限の情報は区からの冊子などで参考にできたが、それぞれの園の評判や特徴など、もっと情報を公にしてほしい。

（その他）

・区に相談に行った際は、居住年数でほとんど決まるとお伺いしましたが、いったい何年以上住めば内定を得られるのかきちんと公表してほしいです。

・待機児童のカウントの仕方を改めてほしい。認可に入らなくて事業所内保育所に入れているのに待機児童とカウントされないなんて納得できない。

・もう少し書類をわかりやすくすべき。書類の書き方等の見本もなければ、必要書類の書き方も不親切。

■その他 23名

（お金）5名

・保育料の減額より同じ料金を払いながらも子供たちに充実した保育を受けさせてほしい。

・1歳児から認可を申込み3歳児も入所できない。認可に入れないなら区に納めた税金を返してほしい。

・加点方法に不満。もしくは住民税を軽くするとか受からなかった人たちに配慮してほしい。

・きちんと出生数や保育園入所希望予測を、騒ぐことなく区民の声を聞き入れて、より現実的な待機児童吸う予測を以前からしていれば、ふるさと納税されてしまっただけで杉並区の在住がこんなに減ってしまわずに済んだでしょうに。第二子が子供園に通っています。保育課だけでなく、区の予算が減ってとにかく節約、と老朽化した園舎の建て替え計画も白紙になってしまいました。他にも、言いたいことはいくつもあります。

・認可に入らなかったことには変わりないので、認証保育所と同様、事業所内保育所に通う子どもにも、保育料を一部助成してほしいです。

（ビーチバレーコート）4名

・保育料を上げるならビーチバレーの会場を作る費用を保育園関連に充ててほしい。

・ビーチバレーコートを作る予算があるなら保育園をつくってほしい。

（訪問託児事業）2名

・訪問託児事業を始めるくらいなら、その業者・もしくは保育士をかき集めて1園でも多くの保育園を作るべきではないのか。私立の参入を待つだけでなく区立も増やすべき。

・自宅訪問保育については救済措置なのかも知れませんが他人を家に子供と二人っきりで過ごすなんて怖くてたまりません

（区民との対話）2名

・指数や調整指数などのルール設定について、区の考えを発信し区民や区内の企業と意見交換するタウンミーティングのようなものを行ったらいのでは。区民の中で待機児童問題に対する問題意識がこれだけ高まっており、議論も進んでいるので、健全な議論が行われる素地は十分にあると思う。延長保育の必要性を企業に証明させるという啓蒙的な活動も行っている杉並区なので、待機児童問題へのアプローチの一モデルとしてより存在感を出していってほしい。

・地域住民の理解が広まるような活動をしてほしい。

（その他）

・区の職員枠を作るべき。みんながみんな育休を延長できるわけない。育休を延長したら生活が成り立たなくなるから、仕方なく子どもの預け先を必死に探している。そういうことを理解せず、育休延長を進め、加点し、今までの制度を廃止されてしまったら、私のような若い職員は働いていけないしからしてもいけない。

・希望園記入用紙の復職しなければならないか？のアンケートはやめて欲しい。あれが指数に関係ないと書いてあるが信用できない。

・明らかに預ける時間が遅い人などがいるので、保育園に通ってる人達がお子さんを預けている時間が申告している勤務時間と実際の保育時間とあっているかどうか確認した方がよいと思います。

・幼稚園や保育室の延長保育を充実させる。学童も同様にサービスを充実させてほしい。